

「口演童話」関係資料収集・公開プロジェクト

利用音源：大分県立先哲史料館所蔵音源



●久留島武彦翁の口演● 虎の子の大発見

## 【はじめに】武彦翁がまいた「夢のタネ」、武彦翁や口演童話の関係資料・情報があればご一報を

■今から半世紀前、日本各地を口演童話を語り「夢のタネ」を子供の心に蒔いて歩いた、お話の上手なおじさんがいました。明治大正昭和と日本にとって厳しく悲しい時代に「子供こそが次の世代の宝である」の信念のもと、児童文化の発展に尽くした口演童話家、それが久留島武彦です。

■口演童話とは子供たちを前に童話を語る児童文化の一つで、今日盛んな絵本の読み聞かせとは違い、口演者（語り部）は身ぶり・手ぶりと言術だけで聴衆をひきつけなくてはなりません。対象は子供たちなので、年齢層・時季・会場・地域などの条件によって、話し方には変化が生じます。

■このため、翁本来の足跡を知る方法は、活字化された講演録や伝記に加え、録音された“声の響き”に触れる必要が求められます。

明治末期から昭和 30 年代にかけて、全国のこどもたちを魅了したその話術の片鱗を、このデジタルブックでお楽しみ下さい。

■久留島武彦倶楽部では、書物では表現することが難しい口演童話における『声や響き、言葉の間』の大切さを知ってもらうため、武彦翁本人の肉声をデジタル化する事業を進めており、さらなる音声資料デジタル化をめざし口演童話関係の資料を収集しています。資料や情報があったら当倶楽部にお寄せ下さい（連絡先は巻末に記載）。みんなで後世に残るデジタル資料を充実させていきましょう。

**久留島武彦倶楽部 主宰 桑野 英司**

**【口演の聞き方】** 次ページ以降、ページ左下にON、OFFボタンがあるページでボタンをクリックすると、音声の再生・停止ができます。最初にONボタンを押すと「マルチメディアコンテンツに関する信頼性を管理」という画面が立ち上がります。内容を確認した上で、その画面にある「再生」ボタンを押してください。音声の再生が始まります。

（音の大きさは、パソコン本体の「音量調整」で行って下さい）

## ■ 虎の子の大冒険

「おやっ、お母さん、いないんだな。この間にそっと穴を抜け出して、お母さんがいつも怖い怖いという人間を見てこよう」と虎の子が一匹、山を降りてきました。

「モーオ」。

「ああ、いたいた。あれが人間なんだな」と虎の子は小さくなってヤブの中に隠れていますと、そこにスタスタと上ってきたケモノは、お母さんの体の倍もあるのです。それに頭には二本の角が生えていて、目の玉がすてきに大きいのですが、ぷいっと足の爪を見ますと、それは木の切り株のようで、おまけに口を開けたところを見ますと牙がないのです。

「なーんだあ、これなら突っかかれたって、かみ付かれたって、痛くも怖くもないんだ」と思いましたので、むこうみずな虎の子はいきなりヤブの中から飛び出しました。

「おやっ、オマエは虎の子じゃないか」

「そうだよ。そういうオマエは人間なんだろ」

「はははははははは、ワシが人間だ？。はっ、何を言うのだ。

ワシはな、ウシと言って、

それっ『もーお』。この声からして違うじゃないか。

いったいオマエはそこで何をしているんだい」

「ボク？ ボクはね、人間を見に来たんだよ」

「あははは、人間はワシの体の半分もない。第一、目が細くてね、鼻が突き出ている。

オマエなんか人間に会ったらどんな目に遭うか分からないよ。

もーお、よしにして帰った方がよかろうよ」

と言いながら、

ウシはスタスタと行ってしまいました。

そこに、横の方からブーブーと鼻を鳴らしながら飛び出してきたものがあります。

見ると体はウシの半分よりも小さくて目が細いでしょ、

鼻は突き出しておまけに空を向いて・・・

「あははは、こいつが人間なんだな」と虎の子はおかしくなりました。

「やいっ、オマエが人間なんだろ。おい、止まれ。そして、その顔をよく見せろ」

と怒鳴りつけました。

「ワ、ワ、ワ、ワシはブ、ブ、ブタだよ、ブタだよ。いま人間から絞め殺されかけたので、  
やっと綱を振り切って逃げてきたところだよ。

人間はこの下の方にいるが、

オマエなんか見つかったらどんな目に遭うか分からない。

ブーブー、あー怖い、ブーブー。早くお逃げよ、お逃げよ」

「やだーい。ボクは人間を見なきゃ、帰らないんだよ」と言いながら、

よせばよいのに虎の子は、

なおノソノソと下っていきました。

「コケーコッ、コケーコッ」

「ああ、びっくりした。人間かな？」と草の中に身をかがめて目をくるくるさせながら、いま自分の頭の上を飛び越していったものを見ますと、体の色が黒でもない赤でもない緑でもない・・・いろいろである上に足が二本だけ見えたので、虎の子は「あっ、これが、これが人間なんだ。なんていう、ちっぽけな人間なんだ。これが、お母さんが怖い怖いという人間とは。あっ、分かった。アタシを穴の外に出すまいと思っておどかしたんだな」と考えたので、虎の子はおかしくておかしくてたまらなくなりました。

「こっけいだなあ、人間というものは。うふふふふ、これが、どこが怖いのだろう。ははははは」

「やい、ちっぽけな人間め。なんか、そのこっけいな二本足は」

「な、なんじゃ、私が人間だ？ワタシやな、ニワトリというものだよ。いま、この下の人間から絞め殺されかけたので、やっとここまで逃げてきたんだよ。あーこわ。オマエなんかも見つかったら、つかまえられるで。あーこわ」といってバタバタ、バタバタ逃げてしまいました。

虎の子は人間というものがちっとも分からなくなっていました。でも、この下にというのなら、ちょっと見てこようと、よせばよいのにツーッと竹やぶを潜っていきますと、ひょっこりお百姓さんの家の裏に出ました。

そこには、おじいさんが一人、ブタ小屋の破けたところをスイカズラでつくろっているのです。

これが人間だとは知らない虎の子は、シワだらけの変なケモノだなとも思ったのでしょう、ツカツカとそのそばに寄ってヒョイト

「この近くに人間はいないんですか？」と聞いたものです。

おじいさんはふいと振り向いてみると、虎の子ですからニヤリと笑って

「いるよ。その人間はワシだよ。ひひひ」

「うそだあ、うそだあ。

人間は怖いものというじゃないか。オマエなんか、ちっとも怖くないじゃないか」

「そうだろうとも。その人間の怖いのを見たければな、今宵、この小屋の中に入ってあちらから見ると人間の怖いことが分かるんだよ」

「うそだーい、うそだーい。向こうから見たって、こちらから見たって同じじゃないか」

「論より証拠だよ。さあ、そんなら入ってごらん」

おじいさんがブタ小屋の戸を引き開けますと、虎の子は何も気がつかずに平気なものでノソノソとその中に入り込みました。

おじいさんは「ふふふふふふ・・・見えるよ」と言いながらピッシャリと戸を閉めたうえに、しっかりとスイカズラで入り口をからみつけて「さっ、ゆっくり怖いところをそこから見ておいでよ」といいながら、

「おーい、虎の子をつかまえたぜー、虎の子をつかまえたぜー」。

「なんだ、なんだ、おじいさん、虎の子をつかまえた?」「どこだ、どこだ」「分からない」

「中見ろ、中見ろ、小屋の中に入ったら」

「あっ、はははは、あはははは、あのびっくりした顔は、バカなヤツじゃ。とうとう生け捕りにされたのだな」

と聞いた虎の子は「さては生け捕りになったか」と気がつくと、  
「さあ、大変だ」と小屋の中を右に左に飛び回ってみるのですが出られないのです。

「ヴー、ヴー」夢中になってうなりながら飛び回っておるときに  
「ギャー」という人間の叫び声の間に、  
お母さんの虎の姿が、いきなりそこに飛びついてくるといって、  
虎（の子）のえり首をひっくわえたまま、そのまま風より早く山の方に逃げてしまいました。

穴にやっとこさと帰ったお母さんの虎は、「はっ、はっ、はあ、  
いまひと足お母さんの気につき方が遅かったら、オマエは皮をむかれるところだったんだよ。  
人間の怖いのはな牙でもない、爪でもない、  
知恵があるからなんだよ。  
オマエなんか小さいうちは、決して一人でおうちから出るんじゃないよ」と言い聞かせました。

それから、この虎の子はよくよくお母さんのいうことを聞くようになりましたとき。

## ■久留島武彦翁

久留島武彦は、明治7年、豊後森藩12代藩主の孫として現在の大分県玖珠町森に誕生しました。巖谷小波とともに、わが国の近代児童文化の礎を築いたことで知られ、口演童話や児童劇の開拓者でもあります。明治末期に、児童の社会教育機関としてお伽倶楽部を創設し、この全国普及にも努めました。童話ラジオ第1号も武彦の声によるもので、彼は書く童話作家よりも、話す童話作家の道を選びました。こどもの膝の前の友達になりたいと考え、大正期から亡くなる昭和30年代まで、盛んに全国を口演行脚しています。昭和35年没(享年86歳)。



## ■久留島武彦倶楽部

武彦翁の口演童話の素晴らしさを広めようと、大分県内外の研究者、歴史愛好家らが2007年5月に結成したボランティア組織。主宰は玖珠町在住の桑野英司氏。関係著作権者から著作物公開等に関する委任を受け、資料・情報の収集と公開に務めている。関連資料／情報をお持ちの方は、下記事務局へ

〒879-4413  
大分県玖珠郡玖珠町塚脇「とんかつ東華」内 久留島武彦倶楽部

## ■オオイトタデジタルブックとは

オオイトタデジタルブックは、大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN(なんなん)」の一環です。NAN-NANでは、大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開します。そして、読者からの指摘・追加情報を受けながら逐次、改訂して充実発展を図っていきたく願っています。情報があれば、ぜひNAN-NAN事務局にお寄せください。

### 久留島武彦翁の口演：虎の子の大発見

2008年1月11日初版発行

編集 久留島武彦倶楽部

制作 川村正敏/別府大学メディア教育・研究センター地域連携部

発行 NAN-NAN事務局

〒870-8605 大分市府内町3-9-15 大分合同新聞社総合企画部内

©久留島武彦倶楽部